

「私の第一声⑪」

【自動車免許取得を決意】

私の通った大学は、大阪府池田市にあり、2年間、実家の堺市赤坂台から最初は電車で通いました。泉北高速鉄道光明池駅から南海高野線中百舌鳥駅へ、地下鉄御堂筋線に乗り換え梅田へ。阪急電車に乗り換えて池田まで。片道ほぼ2時間の旅です。最初は高校時代にお小遣いを貯めて買ったSONYのWalkmanでカセットテープの音楽を聴いたり、筒井康隆など好きな作家の小説に没頭したり、途中下車して、梅田曽根崎にあった7階建てのビル丸ごと書店の「旭屋」におっかなびっくり冒険してみたりして、長距離通学を愉しんでいました。

しかし、いかんせん往復4時間、1日のうち6分の1を通学に使うのはあまりに惜しい。そんな時、親戚で、スズキアルトという軽自動車がいなくなったという話が舞い込みます。私は、高校時代の友人が、バイク事故で瀕死の重傷を負った経験から、たとえ四輪とはいえ、免許を取ることにためらいがあったのです。でも背に腹は代えられず、一大決心をして、車通学をすることにしました。

【高校時代の友人のバイク事故】

その友人は、高校1年生で同じクラスになります。私にとっては、クラブの仲間を除けば、最も親しい友人でした。ギターと歌が上手で、フォークソングをはじめ、長渕剛、TMネットワーク(小室哲哉等)やB'z、BOØWYまで、バンド仲間と一緒に演奏し、歌うのです。ライブに出演する彼の姿は、輝いていました。彼の様子を見ているだけで自分まで輝くような気持ちになったものです。

彼は多趣味で、バイクも好き。高校1年生で、すでにモトクロスバイクを所有していました。何度かうしろに乗せてもらって遊びにも行きました。とても慎重に運転してくれます。彼がモトクロスの練習をするところを見に行ったこともあります。彼の運転は、素人の私から見てもたいへんに上手でした。

そんな彼が400ccのレーサー仕様のバイクに乗るようになりしばらくして、交通事故に巻き込まれます。脳外科で有名な病院に救急車で運び込まれ、頭蓋骨を開ける大手術の後、1週間ICU(集中治療室)

で生死の境をさまよいます。何とか死を免れたと聞き本当にうれしかったのですが、お見舞いを許されたのは、何か月も後でした。

ようやく会えた時、彼は病院のベッドの上で、ニコニコと迎えてくれました。最初のセリフは「よっ！」でした。開頭の跡をはじめ、全身の傷を見せてくれました。指先も欠けていました。「大好きなギターも弾けるようになるかわからない」「脳にけがをしたから、突然気を失ったりする可能性がありますバイクの免許もどうなるかわからない」と聞かされました。事故の前後の記憶がなく、事故前の最後に記憶に残っている場面は、事故現場から数キロ離れた路上の景色とのことでした。

警察の捜査で、事故の詳細が明らかになっていました。日が暮れた後、彼は安全な法定速度で走っていました。対向からトラックが来ます。トラックの右ライトは切れていました。おまけに、大きくセンターラインを越え、こちらにはみ出していたのです。彼からは、1つのヘッドライトしか見えません。だからバイクか何かが対抗車線を走っているように見えていたはずでした。そして、突然無燈のトラックの半分が目の前に現れ、衝突したのです。

彼はきちんとフルフェイスのヘルメット、革のつなぎのライダースーツ、丈夫な革の手袋を身につけていました。どれか一つでもつけていなければ、その部分は吹っ飛んでいたはずでした。

【「ハンドルもてばヘルメット」運動の大切さ】

三中でも数年に1度、自転車事故で命が危うくなる事故が起きています。運転が上手で、きちんとルールを守っていても、自分の命を失ったり、誰かの命を奪ったりする可能性があるのです。皆さんの人生は、今後楽しいことがたくさん待っています。心からのお願いです。どうか、自転車通学時のヘルメットはもちろん、普段から交通ルールを守り、自分と周りの人の人生を守って下さい。くれぐれもよろしくお祈りします。

【不定期コラムNo.24】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

